

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
61053	美術科教育法Ⅲ	2単位 前期	4	講義	瑞慶山昇（非）

■テーマ 中学校及び高等学校の美術科教員として教科経営に必要とされる知識と実践的技能の習得

■授業の概要

中学校美術・高等学校芸術（美術）の指導に必要な知識や実践的スキルについて、講義やグループワーク等の事例研究活動を通して学ぶ。

■到達目標

- ・美術室の経営について理解し計画することができる。
- ・用具や材料の安全な扱いに関する知識を習得し指導することができる。
- ・授業導入の工夫や個に応じた学習支援ができる。
- ・各種素材や地域の伝統文化を題材にした教材研究ができる。
- ・特別支援学校、学級における造形教育を理解し説明できる。
- ・校種間連携の重要性について説明できる。

■授業計画・方法

1. ガイダンス。授業全体の説明。
2. 美術室の経営（机の配置や用具、材料、生徒作品の管理）に関する研究。
3. 用具の扱い（正しく安全な使用）の指導に関する研究。
4. 鑑賞活動を促す作品の展示（校内外での作品展の企画や授業中の参考作品の展示）に関する研究。
5. 機器（液晶プロジェクター、電子黒板、大型モニター、デジタルカメラ、ビデオカメラ等）の授業への活用研究。
6. 学習意欲を高める授業開始（導入の工夫）の研究。
7. 個に応じた支援（技法的支援と効果的な助言）研究。
8. 協同制作の学習効果と授業の実践例研究。
9. 自然物（木の葉、木の実、小枝、草、花、流木、小石、砂、貝殻等）を使った教材研究。
10. 人工物（新聞紙、牛乳パック、段ボール箱、空き缶、ペットボトル等）を使った教材研究。
11. 映像メディアを使った教材研究。
12. 地域の伝統文化を題材にした教材研究。
13. 特別支援学校、学級における造形教育の研究。
14. 校種間の連携（中1ギャップ対策としての小学校図工科と中学校美術科との連携）に関する研究。
15. 授業のまとめ。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・受講者は、美術科教育法Ⅱを履修しておくこと。
- ・グループワークでの授業では積極的に討議に参加すること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点(60%)、期末レポート(40%) 平常点は授業への参加状況、発表や提出物等で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- 教科書 特になし
- テキスト 必要な資料（プリント）を随時配布する。
- 参考文献
 - ・中学校学習指導要領解説「美術編」（最新版）
 - ・高等学校学習指導要領解説「芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」（最新版）